

2-1-3 既存資料の収集

Practice

37ページの表1は「地域のアセスメントの車輪」の各領域について、関連する情報と、情報源となる既存資料の例を示したものです⁵⁾。表1をもとに必要な既存資料をチェックし、実際にそれらを収集してみましょう。また、下記に既存資料の取り扱い上の留意点を記載しましたので、ご参照ください。

既存資料を利用する際の留意点

既存資料を利用する際には、それらの適切な取り扱い方を十分に理解しておく必要があります。具体的には、以下の3点です。

□ 入手した情報が収集された目的・方法・時期を把握する

情報の集められた目的により、データがある側面に偏っている場合があります。自分が対象とする地域や人びとにも、その情報を適用して解釈することが可能か十分に吟味しましょう。国勢調査や衛生統計などの調査データを利用する場合は、その調査時期を確認することも大切です。

□ それぞれの情報の出所や出典を明確にする

それぞれの情報の出所や出典を明確にしておくことで、後の分析の段階で、データの取り扱いを適切にすることができます。

□ 倫理的配慮

資料に個人情報が含まれている場合は、プライバシーの保護や人権擁護について十分に配慮しましょう。また、一般に公表されていない情報を用いる場合等は、資料の作成者・機関に利用承諾を必要とする場合もあるので注意して下さい。



表1 各アセスメント領域の情報と情報源

領域	関連する情報	情報源となる 既存資料の例
コミュニティを構成する人々 Community Core	歴史 人口統計 人口動態 価値・信念・宗教 習慣・文化・伝統	国勢調査 厚生労働白書 市勢要覧 市民調査, 世論調査 歴史資料, 風土記, 史歴年表
自然環境 Physical Environment	気候 総土地面積・地形・地質・土壌 景観・作物・植生・動物 大気質・大気環境 水質・水環境	地図・地形図 住宅地図 ガイドブック 気象統計情報データベース 自然環境保全調査報告
教育 Education	教育資源状況 スポーツ・運動 生涯学習・教育, 教育歴	教育委員会報告書 生涯学習教育計画書 学校保健統計調査
安全と交通 Safety and Transportation	消防 警察 衛生, 大気汚染 交通手段, システム, 一般道路状況	防災計画, 消防統計書 保安・犯罪白書 環境省関連資料 運輸・交通統計書 交通機関路線図, 時刻表
政治および行政 Politics and Government	首長施政方針 行政機構 市民団体活動	行政要覧 基本計画 広報誌, 掲示板
保健および社会サービス Health and Social Services	サービスの種類(地域内, 外) サービスの内容 サービスの周知度・利用度・利用状況 サービスの評価 社会資源	国民健康・栄養調査 保健所報・衛生統計年報 保健・福祉事業報告書 患者統計, 医療費統計 保健福祉計画, 医療計画
コミュニケーション Communication	新聞, ラジオ, TV 広報・ポスター インフォーマルコミュニケーション	タウン広報誌 リーフレット 情報通信基本調査報告
経済 Economics	市民取得 市町村財政指標(財政力指数) 市町村歳入歳出 第1-3次産業就業人口(主要産業) 雇用状況	国勢調査 市町村歳出比較分析表 市町村財政報告書 労働力調査報告 物価統計調査報告
レクリエーション Recreation	サービス 娯楽施設 公園, ゲートボール場, 図書館など	観光案内 各種施設案内 広報誌

2-1-4 地区視診

地域へ足を運んでみよう

先述の通り、地域アセスメントでは、自分の足で地域を歩く、住民の声をじかに聴く、地域活動に参加するといった五感を用いた情報収集が何よりも重要です。本書では、こうした「自らその地区を歩き、自分の目で見て、また感じて情報を得る方法」⁶⁾を「地区視診」と定義し、地域アセスメントにおける手法の一つとして位置づけています。

① 地区視診を実施する地区を、あらかじめ地図上で明確に区切っておく

どのような規模で地域をとらえるかは様々であり、自治会単位、小学校単位、中学校単位など、決まった基準というものはありません。移動手段についても、市町村単位など大きく地域をとらえたいときは車や交通機関を用いて、受け持ち地域など小さな範囲をとらえたいときは徒歩で、といったように臨機応変に対応しましょう。

ここで重要なことは、自分が地域の中でとらえたい範囲をはっきりさせることです。得られた情報を後で整理しやすくするためにも、事前に地区を特定し、その地図を手元に準備しておきましょう(図4)。

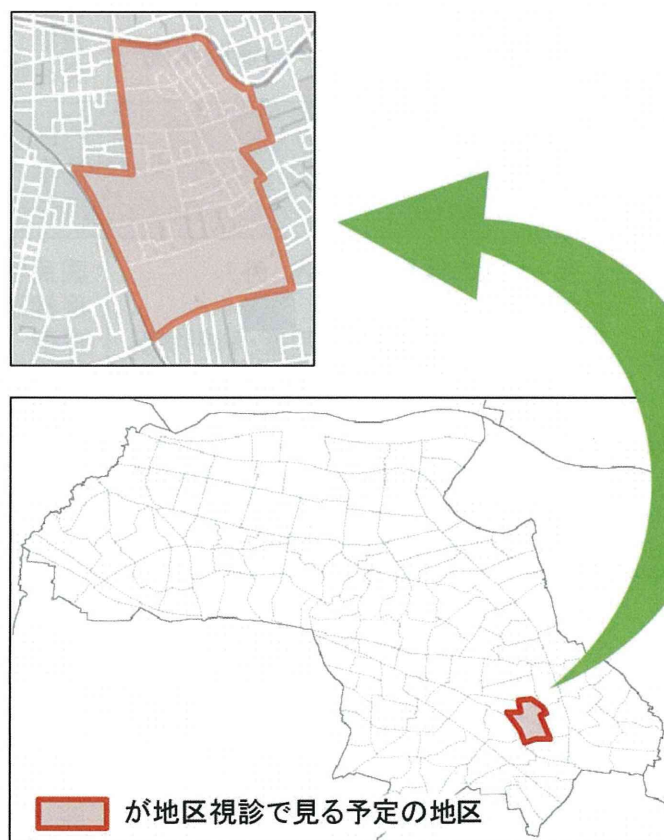


図4 対象となる地区を地図上で明確に区切っておこう

② 地区視診の実施時期や時間、天気などを記載しておく

地区視診をする中で、同じものを観察していても季節や時間帯により見え方が異なっていたり、個人の感覚の違いによってとらえ方が異なるもの、長期間にわたり観察していないと分からない事柄も存在し得ます。他の記録との混同を避け、対象を正確にとらえるためにも、地区視診を実施する際は実施時期や時間、天気などをきちんと記載しておくようにしましょう。

③ 当日の服装と持ち物

実際に地区視診を行う際には、身軽で動きやすい服装を心がけましょう。持ち物については、参考になる書類や書籍などを持って行きたいところですが、地区視診を実施している最中は「地域を見る」時間を多くするため、できるだけ最小限になるようにするのがコツです。カメラやビデオがあると、後で自分が観察したものを振り返ったり、情報を他の人と共有する際に便利です(表2)。

地区視診として地域に足を運ぶ時間を確保することが難しい場合には、家庭訪問や地区活動の傍ら、意識的に地域を見るようにしてみましょう。

表2 当日の持ち物の例

- 地域の地図
- 筆記用具
- 地区視診のガイドライン
(40～41ページの表3をコピーして使用できます)
- ガイドラインの記入シート
(42～43ページの表4をコピーして使用できます)
- クリップボード
- メモ帳
- カメラ・ビデオ

CHECK!!



2-1-4 地区視診

Practice

地区視診のガイドライン(表3)に沿って、実際に地域を歩き、情報を収集してみましょう。その際、各項目にSCがどのように関係しているのかを意識しながら取り組みましょう。

表3 地区視診のガイドライン

項目		項目の内容
人びとの様子	集う人びとと場所	集う場所・時間・集団の種類とその印象 人びとが集まっている場所とその集団の特徴、集まって何をしているのか、目的は何か、時間や閉鎖性はどうか
	街を歩く人びと	どんな人が街を歩き来しているか、格好や印象、その地域でどんな人を見かけるのか、時間帯や行き交う人びとの特徴や印象
	SCの視点	人々の豊かな関係性は、地域のソーシャルキャピタル形成の素地となります。どのような人がどこで交わっているのか、何をきっかけにした交流か、逆に集わない人はどのような特徴を持っているのか、など多角的にアセスメントしましょう。
生活環境	家屋と街並み	家屋・屋内・集落の様子、家屋の素材や建築方法、古さ、一般状態、周囲の家々の状況、街並みの様子、においや音、住宅の密度、どういう地域か、どんな人が住んでいるか
	広場や空き地の様子	田畑・公園・空き地などの広さと質、そこにあるもの、持ち主、使用者、使用状況、空間の印象を中心に
	交通事情と公共交通機関	車や道路の状況、混雑状況、信号・横断歩道・踏切の有無と様子、公共交通機関の種類、利便性、主な利用者、経路、時刻表など
	店・露店	住民の買い物場所、店・商店街の種類や特徴、利用者の特徴、店までの交通、露店の有無と種類、利用している人やその状況
	メディアと出版物	住民が主に利用している新聞・雑誌・タウン誌・メディア・ケーブルテレビの有無、それらの特徴や住民への浸透度
	SCの視点	住居や土地利用状況は、人々の生活や周辺地区がどのようなコミュニティなのかをアセスメントする上で大きなヒントとなります。また、人びとの外出のしやすさや集いやすさ、情報の入手しやすさにも影響し、街の活気にもつながっています。

(表3つづき)

項目		項目の内容
地域のサービス	社会サービス機関	社会サービス機関の種類, 機関の目的, 利用状況, 建物の様子, どんな人が利用しているか, 具体的に何が行われているか
	医療施設	医療機関の種類と規模, 診療科名, 特徴, 建物の様子, 地区との密着度, 立地場所, 医療機関までの距離と利便性, 開業時間, 休日など
	SCの視点	社会サービスや医療を通じたつながりや交流は, ソーシャルキャピタル形成の重要なきっかけの一つです。共通のニーズや背景を持つ者同士のつながりやグループを広くアセスメントしておくことが, 必要時には関係する者同士を引き合わせるような取り組み(橋渡し型ソーシャルキャピタルの醸成)につながります。
地域の性格・特徴	地区の活気と住民自治	地域の発展・衰退の状況と住民自治組織の活動状況 活気があるか, 自治会の活動を示す看板・掲示板・ポスター・チラシの有無, ごみ・ごみ置き場の様子, 地域の清潔さ, 清掃状況, 環境美化など
	地域性と郷土色	人種や民族性を表すものがあるか, その地域を特徴づける産業, 特産物, 祭り, 観光地, 地区独特の文化, 郷土色, 地域性など
	宗教や政治に関するもの	寺社や墓地, 住民の信仰や宗教の特徴 住民の政治への関心や議員に関すること 地区に政治の有力者がいるか など
	SCの視点	自治組織, 地域の行事(例:祭り)など, 人々が集まり, 協働する機会は, 時代と共に減りつつありますが, ソーシャルキャピタル醸成という観点からは非常に大きなきっかけと言えます。地域で事業を展開する上で, 地元キーパーソンや主要組織との連携は必須となります。

2-1-4 地区視診

表4 地区視診記入シート

調査日時: 年 月 日 時 分 ~ 時 分 天気()
 ()地区 移動手段()
 記載者()

項目		項目の内容
人びとの様子	集う人びとと場所	
	街を歩く人びと	
生活環境	家屋と街並み	
	広場や空き地の様子	
	交通事情と公共交通機関	
	店・露店	
	メディアと出版物	

(表4つづき)

	項目	項目の内容
地域のサービス	社会サービス機関	
	医療施設	
地域の性格・特徴	地区の活気と住民自治	
	地域性と郷土色	
	宗教や政治に関するもの	

地区視診を実施する際の留意点

既存資料と同様に、地区視診で収集した情報についても、その取り扱いには十分な注意を払う必要があります。

下記のような方法を通じて、プライバシーの保護や人権擁護に配慮しましょう。

- ・ 録音・録画データはパスワードを設定した状態で保存・管理し、レコーダーやビデオ本体からは削除する。
- ・ 個人名や団体名はアルファベット等で表記し、それらを直接特定できないような形で管理する。



2-1-5 情報を統合し、問題点を整理する

情報を統合する

ここでは、既存資料の収集および地区視診を通じて得られた情報を統合し、分析します。分析の結果から、地域保健事業の企画や見直しを行う上で、SCの醸成を図るためには自分がどんなことから手を付ける必要があるのかを明らかにします。

ここまで紹介してきたように、地域アセスメントを行う上では、あらゆる角度からの情報収集が必要となります。しかし、地区視診の内容をいかに既存資料のデータと結びつけ、分析を行うかについては、あまり議論が進んでいるとは言えません。

そこで、本書では金川ら⁵⁾により作成された表をもとに、先述の地区視診のガイドラインを活用しつつ、その結果を既存資料や他のデータと結びつけるツールとして、「地域アセスメント統合用紙」(46～47ページ・表5)を使用することを提案します。次ページでは、具体的な情報の整理および分析の方法について記載します。

また、既存資料のデータだけではなく、下記のような情報も地区視診の結果を裏付けたり、説明する際の重要な手がかりとなります。分析の際には、積極的に記入するようにしましょう。

- 普段の業務における地域住民との関わりの中で得られた情報
- 同僚との会話の中で得られた情報
- 地域におけるキーパーソン(例えば町会や自治会の役員、自主グループのリーダーなど)へのインタビューの結果

保健師の目

《自分の地域の宝物探しをしてみましょう！》

地域で必要なものは、『人・モノ・金・情報・技術(テクニック)』と聞きます。

SCを把握する場合、まず、「人」を考えてみましょう。それは、人との出会いであり、関係性だと思います。「この地域にはどんな人がいるのだろうか」「どんな活動をしているのだろうか」と、地域にとって宝となる人や活動について、職場のみんなと力を合わせて探してみましょう。

職場内での共通認識は、情報の共有化から始まります。「子育て広場の活動はA保健師が良く知っている」なら、その情報を他の保健師に伝達してもらいましょう。「育児サークルの活動は社協の職員が良く知っている」なら、社協の職員からその情報を教えてもらいましょう。簡単なメモ書きで良いと思います。これらの情報を職場で蓄積し共有していくことで、いずれ、地域ごとや分野ごとに整理できるようになります。

Practice

46～47ページ・表5の「地域アセスメント統合用紙」を使って、既存資料のデータと地区視診の結果を統合し、分析をしてみましょう。分析は、大きく分けて4つのステップから成り立っています。

- ① 42～43ページ・表4の「地区視診記入シート」に記入した観察内容を下記の項目に仕分けし、「地域アセスメント統合用紙」に記入する。

a. 地域に暮らす人びと
歴史, 人口統計, 住民の様子, 価値観と信条
b. 地域を構成している8つの領域
物理的環境, 保健医療と社会福祉, 経済, 安全と交通, 政治と行政, コミュニケーション, 教育, レクリエーション
c. 地域に対する思い・認識
住民はどう感じているか, 自分はどう感じたか, その他の印象

- ② ①でまとめた観察内容を裏付けたり、説明できる既存資料のデータを記入する。その際、まだ資料としては存在していないが、観察内容の根拠となるデータがあれば、あわせて書き込んでおく。
- ③ ①で記入した地区視診の結果と、それに関連する既存資料のデータ(②)を照らし合わせて、両者に共通している点、あるいは一致していない点から問題点を書き出す。(例:〇〇が不足している, 〇〇が必要, など)
- ④ ③で書き出した問題点の中で、自分が着手すべき優先順位を決める。

SCの視点

- 抽出された問題点に優先順位を付けることは、業務の効率化につながる。
- 地域アセスメントは、必ずしも単独で実施するものとは限らない。アセスメントの過程に地域住民を巻き込むことで、より広範な情報を収集することが可能になる。
- 例えば、地域住民への聞き取りやアンケートをキーパーソンと分担して行ったり、地域の課題に関するグループワークの結果を地域アセスメントに取り入れることで、詳細かつ実態に即した資料を作成できる。